

## 改定に向けた主な意見

改定に向けた主な意見として、以下の内容を取りまとめた。

- ・第1回まちづくり基本方針検討小委員会（6/28）における主な意見
- ・ヒアリング（7/16～8/12）の実施結果

## 1 現行まちづくり基本方針の評価・課題について

分類	意見
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行のまち方針改定時に示した指標について、<u>今回の評価から抜いた理由や新たに追加した理由</u>を説明してほしい</li> <li>・めざすべき将来像に向けた取組方向として設定した<u>地域ごとの重点プロジェクトの対応や進捗状況の確認</u>が必要である</li> </ul>
防災・減災対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水ハザードマップの見直しが進んでいるが、<u>低頻度な雨に対して強いまちづくりを進めていくことも重要な課題</u>。<u>災害時の地域間移動にどう対処すべきか</u>。災害時情報取得が重要で、スマホの充電設備は重要なインフラ</li> </ul>
脱炭素化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会を構築するためには環境が最優先であり、その前提で、魅力活力の取組などがある</li> <li>・「脱炭素社会」に向けて主体性を持って取り組む必要がある。若い世代は環境問題に対する感度は非常に高く、方針を示すことで県民の関心もさらに高まるのではないか</li> <li>・脱炭素について、果たして数値だけをみて強力に押し進めていいものか疑問である。<u>地域の状況や特性に留意し、方針や目標を検討する必要がある</u></li> <li>・脱炭素への寄与には、<u>コンパクトにしてエネルギー効率を高めることに限定しなくても、従来の仕組の中でも十分対応できるという選択肢を用意した方がよい</u></li> <li>・脱炭素の推進に当たっては、大きく作り替えるだけでなく、地元の工務店が知識と技術を身につければ、<u>対応できるよう県が後押しする仕組みづくりが必要</u>。<u>太陽光発電のように大資本の草刈場にしないという姿勢が必要である</u></li> <li>・<u>国の一律的な施策をうまくチューニングして、市町とのつなぎ役をするのが県の役割</u></li> </ul>
創エネ・省エネ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多自然地域の将来像「都市へのエネルギーの供給源となっている」は、<u>都市と多自然地域のコンフリクト（相反関係・膠着状態）を含んだ目標となっており検討の必要がある</u></li> <li>・地方で太陽光発電パネルが多く設置されている中で、その<u>地域の人たちの負担になっていないか考える必要がある</u></li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創エネ・省エネは、<u>一律のルールを押しつけるのではなく、都市部・多自然地域、それぞれの地域にあった方法で貢献していれば</u>いい</li> <li>・エネルギー的には「集中・効率化」が最良だが、モニタリングと制御技術で、コンパクト化（集中化）しなくとも「分散・効率化」は可能と考える</li> <li>・農村で発電した電気は、結局地域内でどれだけ消費しているのだろうか</li> <li>・エネルギーを地産地消できる仕組みは、農村部の地域経済に大きな影響を与える要因の一つになる</li> </ul>
景観・地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の何気ない景観や文化の価値が高まるとあるが、今後それらが失われていく中で、どう維持していくかの議論が必要</li> <li>・<u>高いレベルの文化的な建物でなくても、生活文化レベルの建物を認定する制度があれば、それらを地域資源として残すようなビジネスにもつながる</u>のではないかと</li> <li>・昔に比べて地域性がなくなっている</li> </ul>
土地利用の規制誘導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街化区域内の生産緑地は活用が進みつつあるが、市街化調整区域や非線引き都市計画区域内の農地は、今後も需要が増えるだろうから、もう少し使いやすい制度があればいい</li> <li>・<u>市街化調整区域について、住みながらビジネスができるような規制の緩和を考える必要がある</u></li> </ul>
医療、購買機能の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>買い物難民は、都市部や郊外住宅地の方が深刻かもしれない。</u></li> <li>・<u>多自然地域は、購買施設よりも医療施設や産科の医院の方が大事ではないか</u></li> </ul>
地域の交流・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の都市とふるさとの関係のような関係性が必要である</li> </ul>
子育て世代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や障害者というキーワードはあるが、ベビーカー使用者など子育て世代に対するバリアフリー等の視点がない</li> </ul>
働く場・働き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>働く場や働き方が重要。移動や市街地形成などへの落とし込み方も</u>いろいろある</li> </ul>
ポストコロナ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少に対して、まちの活力や魅力は重要。<u>コロナ禍で自然の中で暮らせる、働ける、子育てできる環境が注目されている</u></li> <li>・コンパクトシティという概念は、東京一極集中に通ずる。効率性の観点からいえばそうかもしれないが、<u>ポストコロナ後の分散型への流れ、技術進歩の可能性を考えれば、兵庫県はコンパクトシティだけではない成立の仕方を目指すことができる</u>のではないかと</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そもそも、まちづくり基本方針について知る機会はあるのか</li> <li>・アンケートの結果についての妥当性を確認したい。回答者の属性に偏りがあると結果にも影響する可能性がある</li> </ul>

## 2 まちづくり基本方針改定の方向性について

分類	意見
地域設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひょうご五国という行政の線引きで論点を分けるのは結構難しく、<u>テーマごとの地域の特徴を整理するには、地域の空間的な特徴から見た整理が適しているのではないか</u></li> <li>・情報をトレースしやすいのは4つの地域。県民を巻き込みやすいのは五国。まち方針でどのようなことを伝えたいのかによって決めればよい</li> <li>・歴史は五国であっても、未来に向けては4地域が整理しやすいのではないか</li> <li>・市町ごとや県民局ごとという縦割りではなく、地域の性格分けで区分すべき</li> <li>・ひょうご5国にしても、結局は市町単位まで踏み込まないとわかりづらいのではないか。また、長期ビジョンとの整合も考える必要がある</li> <li>・<u>4地域や4テーマは、現行方針で初めて設定したもので、もう少し時間をかけて判断したらよい。</u>必ずしも早急に変える必要はないと思う</li> </ul>
テーマ設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>自立と連携は他3つのテーマを実現するための方法論のようなものであり、都市構造をどうするか、環境共生等をどうするか、役割分担や連携をどうするか、という形でまとめるなど、4つのテーマにこだわる必要はないのではないか</u></li> <li>・4つのテーマについては、地域によって優先順位が変わってくると思うが、特に重要と思うテーマ1つを錦の御旗みたいに掲げ、その下に他のテーマをぶら下げるとわかりやすい</li> <li>・4つのテーマは相互に関係しあうものであり、地域ごとに相互関係が異なる。地域の中でテーマを語るのがよい</li> <li>・4つの地域、4つのテーマでもいいが、例えば「働きやすいまちづくり」ということを重く受けとめるのであれば、テーマとして位置付けるというのも一つ</li> <li>・長期ビジョンの柱の一つに「個性の追求」「美の創生」とあるように、魅力と活力を強調するべきではないか</li> <li>・<u>全体を統合した、今後のまちづくりの方向性を示す大きなテーマを一つ設けてはどうか</u></li> <li>・地域の個性やアイデンティティを再発掘・再認識して誇りあるまちづくりをするということが4つのテーマを括る基本メッセージであり、コンセプトとして最初にくるのではないか</li> <li>・<u>大阪には取り込まれない、「兵庫プライド」を持てる、進めるといのはどうか</u></li> <li>・市町との関係と大阪との関係がインストールされた基本方針にするべき</li> </ul>

<p>指標・目標設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>指標はあってもよいが、目標まで掲げるのは疑問がある</u></li> <li>・ IoT や AI などを利用してモニタリングを行い、<u>目標の共有や現状を認識しやすいまちづくり指標が望ましい</u></li> <li>・ モニタリングの仕組みを作るべき</li> <li>・ 全ての項目を同じレベルでモニタリングするのは難しい。<u>重み付けをしたものについて、意識的にチェック</u>するなど工夫が必要</li> <li>・ 各地域を同じ指標で測るのは難しい</li> <li>・ <u>指標が継続してとれなくなるのは仕方ない。それよりもたくさん指標があり、主観的に選定された指標とデータの客観性とのバランスが重要</u></li> <li>・ 今後の農村地域に関して景観や生活環境・自然環境が重要になってくると思うので、環境に関する指標がもう少しあった方がいい</li> </ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4つの地域と4つのテーマに、それほど違和感はない。一つの方向性を示すことは難しいというか、そういう時代でもないという気もする</li> <li>・ まちづくり基本方針の役割を考えると、これは、まちづくりの取組を誘導するもの</li> <li>・ 基本方針で示された取組が県民生活にどう結びついていくかがわかりにくい</li> <li>・ 誰がどのレベルでこの基本方針を認識し、誰がこの目標に対して取り組むのか明確にする必要がある</li> <li>・ <u>県政は遠い。市政・町政とのつなぎ、共有が重要</u></li> <li>・ <u>市町のまちづくりのレベルにばらつきがあり、低い市町へのサポートと独自施策による支援、方向性の提示が県の重要な役割</u></li> <li>・ 市町担当者との意見交換があってもいいのではないか</li> </ul>